

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	一橋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヒトツバシダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	短期海外研修(スペイン企業派遣)
	学部・研究科等名	国際教育センター
	担当教職員名・役職	国際教育センター長/准教授阿部 仁
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	6
	受入企業等数	1
	受入企業等名	ベルヘ社
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,3.海外インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターン先の部門に特化した市場のニーズ調査を現地社員(メンター)の指導下で行い、企画・立案を含めた英語によるプレゼンテーションを役員等の前で行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している,9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	当該インターンシップは、国際交流科目として実施している。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	全学部生を対象とする。
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	7単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学部生を主な対象として、春休み期間中にスペイン・Berge社にて約5週間、英語による企業研修、実習に参加するインターンシップを組み合わせた国際教育科目「短期海外研修(スペイン企業派遣)」として実施している。本科目では、文化の違いを越えて協働する経験を通じ、グローバル社会で実力を発揮できる自信を育て、異文化環境におけるコミュニケーション能力を向上することを学習目標とする。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全7回の事前学習の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解(第1回)、インターンシップ中の目標設定等を行う(第7回)とともに、スペイン文化についての学習研究(第2,6回)やスペイン語研修(第3,4,5回)、インターンシップ中のリスクマネジメント(第7回)等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、インターンシップ後のグループワークや企業担当者を招いた報告書(60 page程度、英語)を作成し、インターンシップ先に提供している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学等の教職員がインターンシップ中に学生および現地社員(メンター)と面談を行い、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「行動特性診断」を用いて、学生のインターンシップ前後のコミュニケーション力、問題解決力、グローバル・マインド(柔軟性)、海外における学習行動力変容を客観的に把握し、学生の行動の変化を意識付け、学生のキャリア育成と連動させる指導を行う。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間32日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間50日間(うちインターンシップ実施期間32日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前研修7回(x105分)、ベルへ社において、32日間の企業研修、帰国後の報告書作成に10回程度の会合を実施。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中に職場に現地社員(課長クラス)がメンターとして配置され、学生の質問やニーズに応える体制を整えている。インターンシップ終了後、メンターは学生のパフォーマンス評定を本学教職員に提供し、教職員が帰国後に学生にフィードバックする。教職員は毎年現地企業に赴き、プログラム改善について現地担当者および参加学生で情報交換する場を設けている。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/short-term/spain/index.html	
問い合わせ先	大学等名	一橋大学
	担当部署名	学務部国際課・学生交流係
	担当者役職名	
	担当者氏名	山田 理恵
	電話番号	042-580-8764
メールアドレス	int-gs.g@dm.hit-u.ac.jp	